

# 銀座通り景観整備検討委員会

## — 第 2 回 —

平成 29 年 9 月 6 日  
一般社団法人 銀座通連合会  
東京国道事務所

1. 目的とコンセプト	01
2. 高木の樹種	03
3. カツラ植栽における基盤整備	04
4. 高木の配置	09
5. ストリートファニチャー	13
6. 銀座通りの維持管理	16
7. 今後の進め方	19



## (1) 整備の目的

### 背景

- ◆ 我が国を代表する商業・ストリートである『銀座通り』  
…明治以来、先進的な街づくりに取り組む銀座の「軸」を構成
- ◆ “銀ブラ”に代表される、歩いて楽しい街・歩くシーンが絵になる街  
…個性豊かな沿道店舗、風格が感じられる街路空間
- ◆ 長い歴史を通じて、街並みと共に変遷してきた街路樹  
…明治期の松・桜・楓に始まり、現在は試行的に植えられる榎（イチイ）

2020年に開催予定の東京オリンピック・パラリンピックを契機とし、我が国を代表する『銀座通り』において、来訪する国内外の人々が憩いと安らぎを感じ、美観を愉しむ歩道環境をつくり出す。

### 方向性

- 通り全体の統一感を大切にした風格のある街路整備
- 個性豊かな店舗と一体となった「賑わい」のある街路整備
- 四季折々の風景を発する「季節感」あふれる街路整備
- 街路樹のつくる緑陰により心地良く「環境」にやさしい街路整備
- 「ユニバーサルデザイン」に配慮した街路整備

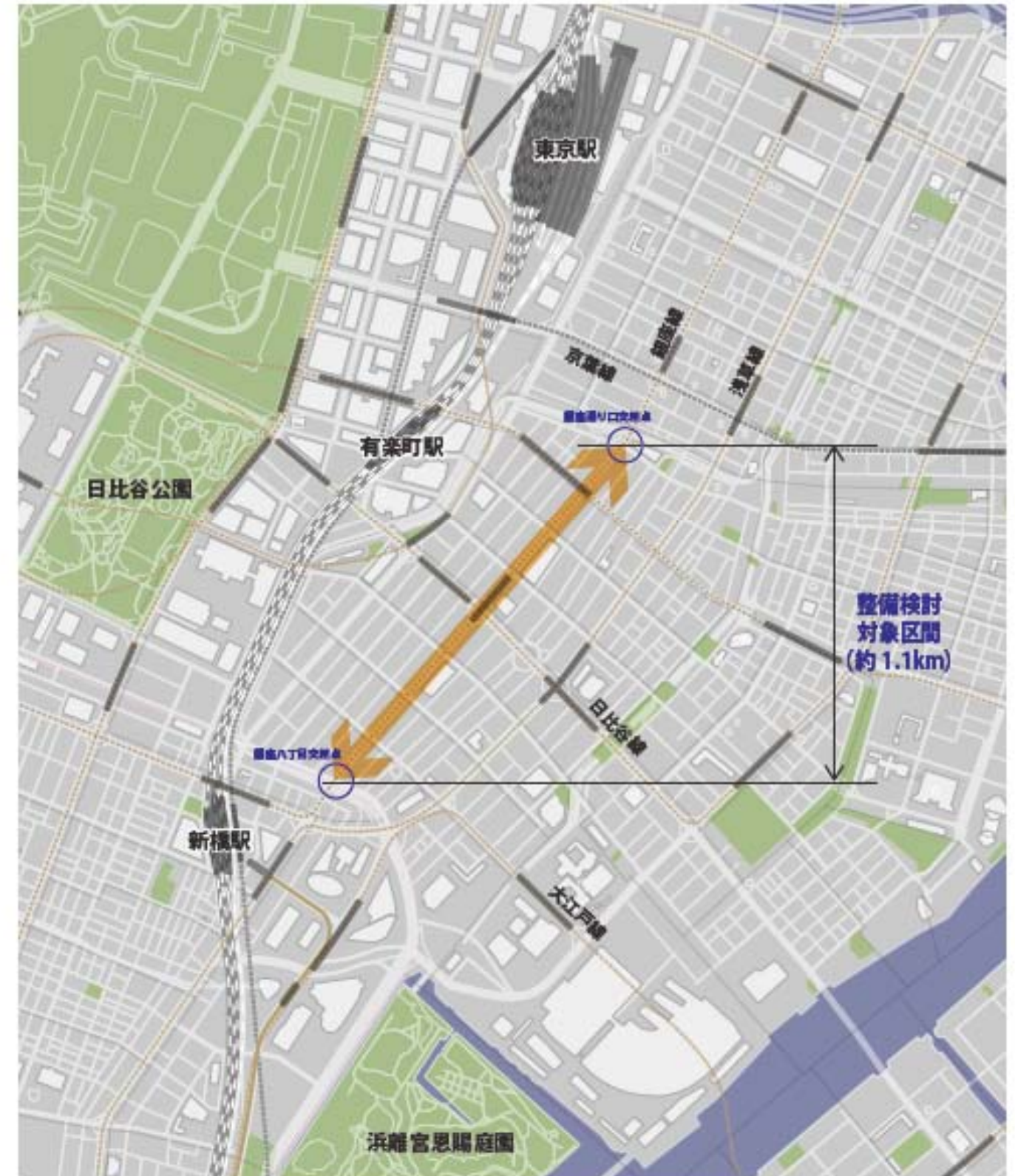


図1 整備対象区間



## (2) 『銀座通り』への地元の想い（地元による整備コンセプト）

### 1) オリンピック&パラリンピックに向けて世界に誇れる美しい通りにする

2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピックに向けて、歴史を通じて培ってきた、世界有数の上質な商業空間にふさわしい、風格と美しさを備えた街路空間をつくり出し、世界から東京を訪れる人々を「おもてなし」する。

### 2) 誰もが歩く楽しさやにぎわいを感じる通りにする

歩行者を大切にできる社会へと変わりつつあるなかで、明治期より“銀ブラ”という言葉が定着する銀座での、回遊の魅力を次世代に向け発展的に継承していくために、国内外から訪れる誰もが歩く楽しさやにぎわいを感じる、街路空間形成や街づくりを行っていく。

### 3) 地球環境に配慮した豊かな緑のある通りにする

都心のヒートアイランド化が問題視されるなかで、CO<sub>2</sub>の排出抑制や、葉の蒸散作用により大気の冷却効果が期待される街路樹の整備や、歩行者目線における草花など豊かな緑を連続させることにより、四季折々の美しさや柔らかな緑陰のある街路空間をつくり出していく。

### 4) ユニバーサルデザインを意識した通りにする

高齢化が著しく進展することが予想される我が国を代表する通りとして、誰もが安全安心に歩けるような技術的配慮や、歩き疲れたら気楽に座り休める場を設けるといった、ユニバーサルデザインの発想に基づく街路空間形成に創意工夫を図っていく。

### 5) 地元の想いを発展的に継承した維持管理・運営を行う通りにする

『銀座通り』の持続的な維持管理・運営にあたっては、これまで構築してきた国と地元との信頼や協力の関係に基づきながら、大切に受け継いできた地元の想いを発展的に継承していくストーリー・マネジメントを行うことで、整備した環境の質の維持・向上を図っていく。

緑陰と憩いの場所づくり。  
美しい景観づくり。

銀座ならではの景観を  
つくり出す街路樹を整備

緑の連続と四季の美しさをもたらしプランターの導入

緑陰において安心して  
座れるベンチを設置



## (1) 樹種選定の基本的な考え方 [第1回資料より抜粋]

## □関連法規

道路法

道路構造令

植樹帯の植栽に当たっては、地域の特性等を考慮して、樹種の選定、樹木の配置等を適切に行うものとする。(第十一条の四)

道路緑化技術基準

高木を植栽する場合は、植栽しようとする樹種の成長特性等を理解の上、目標とする樹形、樹高を想定し、植栽する道路空間や維持管理水準に見合った樹種、植栽間隔とすることが望ましい。(2-2 設計)

## □地元による絞り込み・提案

- ◆銀座通りにふさわしい”大きな景”をつくる樹
- ◆都市的で洗練された、特徴ある街路樹景観をつくる樹
- ◆アイレベルでの通りの賑わいへの”見通し”が確保できる樹形
- ◆冬のイルミネーションが似合う樹形
- ◆日本原産である樹
- ◆四季を通じて、豊かな街路景観をつくる樹木
- ◆熱環境の緩和、緑陰の提供など環境性能の高い樹木
- ◆生長/萌芽力富み、建築限界によって樹木の良さが損なわれない樹種
- ◆他の通りでは使われていない樹種
- ◆病害虫に強い樹種

◆形状面 ◆特性面

樹種の絞り込み

カツラの提案

銀座通りにおけるカツラの評価 ↓ 決定

## (2) カツラ植栽における留意点

## □カツラ植栽の留意点 [第1回資料より抜粋]

- 夏場の強い直射や西日を嫌う。
- 保水性・透水性の良好な土壌を好む。
- 市街地などの乾燥した瘦地では良好に生長しない。
- 暑さに弱い。
- 樹高を抑えると樹形が乱れやすい。

植栽基盤を整えることが重要

## □植栽基盤の考え方

カツラの健全な生育

銀座ならではの景観

生育に必要な基盤を整える

整備された条件を維持していく

カツラの生長に応じた管理を行う

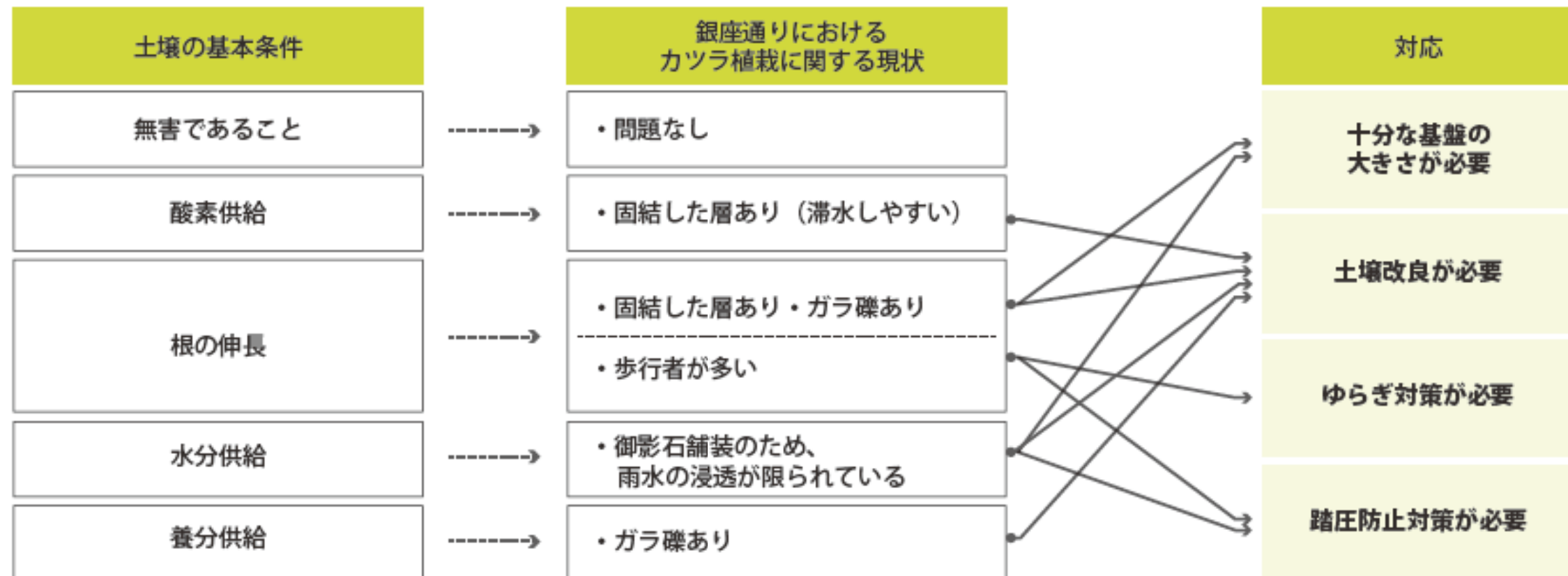
## (1) 基盤整備の考え方

## 1) カツラの育成目標

## 「銀座ならではの景観をつくり出す街路樹の整備」を目指して

- 直幹で、左右対称の整った円錐形による端正な美しい自然樹形
- 通りの美観から、照明灯の高さと同程度、緑量確保→樹高8m・枝張り4m
- オリンピック、それ以降も将来にわたり健全に維持する

## 2) 育成目標を達成するための基本条件と対応





## (2) 植栽基盤の整備目標

### 1) 植栽基盤の大きさ

- 有効土層厚は概ね0.9mが必要と考える。【道路緑化技術基準・同解説 (S63.12)】
- 水分や養分を吸収する細根（吸収根）の多くは根株より1.2m程度の範囲に分布することから、**横断・縦断方向とも2.0m**の範囲を土壤改良する。

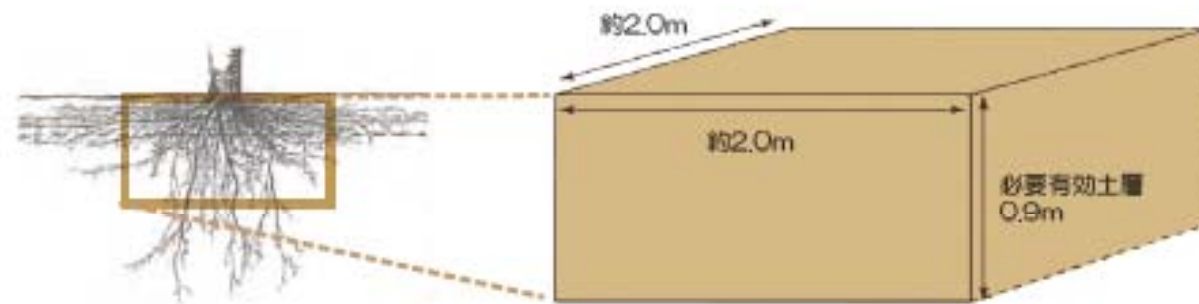


図2 植栽基盤の大きさ

### 2) 土壤改良

#### ① 基本条件と対策

土壤の基本条件		対策
化学的要因	有害物質なし	良質の黒土に客土
	養分	
物理的要因	乾燥しない	保水性確保 (改良材を混入)
	固結しない	入替えによる耕耘
	滞水しない	排水性の確保 (排水層設置)

良質の黒土に客土するほか、改良材混入による保水性の確保、排水層の設置により排水性の確保をする。

#### ① 保水性の確保

- 保水性を高めるための土壤改良を行う。
- 保水性に優れ、土壤の乾燥防止に効果のある**真珠岩系パーライト**を土壤改良材として採用する。



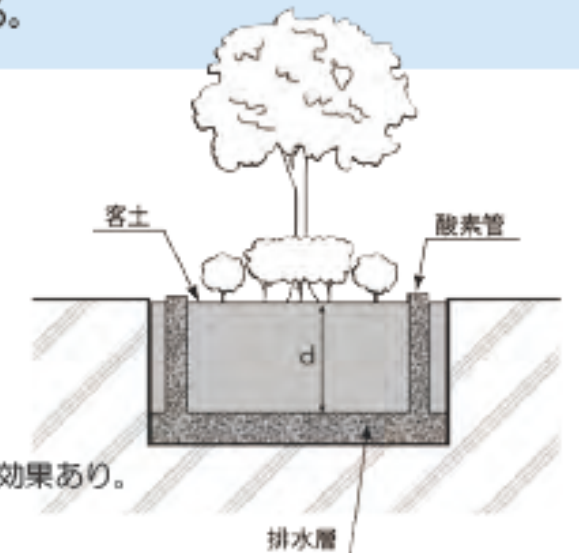
真珠岩系パーライト：真珠岩を焼成加工した軽量で多孔質の改良材。保水力増強や固結防止に効果がある。

#### ② 排水性の確保（酸素の供給）

- 透水試験の結果概ね良好であったが、配慮が必要な箇所もあり。
- 有効土層以深には**10cm程度の排水層**を設置することにより、滞水を防ぎ、根の呼吸に必要な酸素を供給する。
- 排水層は透水性に優れた**黒曜石系パーライト**を敷設する。
- さらに、**酸素管を設置**することにより、排水層と外気をつなぎ、根の呼吸に必要な酸素を供給し、健全に育成できるようにする。



黒曜石系パーライト：黒曜石を焼成加工した軽量で多孔質の改良材。透水性、通気性の向上に効果あり。土壤への混入以外に、余剰水排出のための敷き込みも効果あり。





## (3) ゆらぎ対策




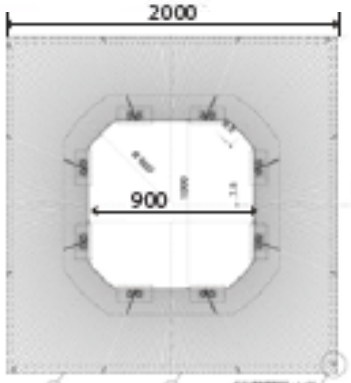
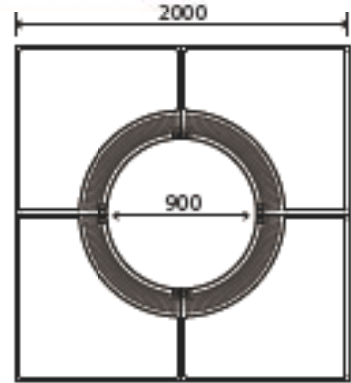

- ・銀座通りは歩行者が多いことから、歩行者の安全性の確保に加え、街路樹の保護が求められる。
  - カツラの倒伏を防止する必要がある。
  - カツラの地上部のゆらぎにより細根が切断され、活着の遅れや枯れの原因となる。

	地上支柱		地下支柱		杭打ち込みタイプ	
	地上支柱		地下支柱		杭打ち込みタイプ	
概要						
形状寸法	形状寸法：H=1,600mm、φ500mm、杭長：700mm 材質：鋼材		対応樹木規格：樹高～8.0m、根鉢高～0.95mの場合 形状寸法：1,520m×1,520m 材質：分解性幹巻ベルトを採用		対応樹木規格：樹高7.0m～10.0mの場合 木杭根入れ深さ：約1.8m、材質：丸太+鋼製金具	
施工	・地表面から杭長700mmを打ち込み設置する。		○ ・スライドアンカーを広げて固定させる。 ・2.0m×2.0mの植栽柵に設置可能。		○ ・木杭を深さ約1.8m打ち込む必要があり、地下埋設物等の状況によっては設置が困難。	
カツラへの影響	◎ ・植栽するカツラの幹や根系へ直接接触しない構造で生育への影響がない。		◎ ・根鉢を固定してもカツラの生育に影響が少ない。 ・アンカー設置時の締め固め、根鉢の締め付けに留意が必要である。		○ ・根鉢を固定してもカツラの生育に影響が少ない。 ・根鉢の締め付けに留意が必要。	
地上部安全性	○ 歩行者：・樹皮に触れて肌を傷つけるなどが防止される。ツリーサークル中央部の段差が保護され安全。 樹：・歩行者の寄りかかりなどが防止される。 ・風の影響等によるゆらぎが防止される。		△ 歩行者：・樹木に人が直接触れる可能性があるツリーサークル中央部の段差に踏み込み、躓きの懸念。 樹：・歩行者の寄りかかりなどによる生育への影響が懸念される。		△ 歩行者：・樹木に人が直接触れる可能性があるツリーサークル中央部の段差に踏み込み、躓きの懸念。 樹：・歩行者の寄りかかりなどによる生育への影響が懸念される。	
景観面	△ ・景観の要素として配慮が必要。		◎ ・地上部に支柱がないため美観を損なわない。		◎ ・地上部に支柱がないため美観を損なわない。	
維持管理	○ ・特になし		○ ・分解性幹巻ベルトを採用しているため、基本的にはメンテナンスフリー ・幹のぐらつきが発生した場合には再設置が必要		○ ・樹木が活着後は、ベルトの取り外しが必要 ・幹のぐらつきが発生した場合には再設置が必要	
コスト	△ 約¥200,000（材料、施工費込み）		○ 約¥110,000（材料、施工費込み）		○ 約¥120,000（材料、施工費込み）	



## (4) 踏圧防止対策

- 市街地などの乾燥した箇所では水分供給が重要である（降雨だけで生育できる） → 雨水を最大限に取り込める構造である必要がある。
- 銀座通り全体の統一感を大切にしたい風格のある街路整備を目指している。 → 景観上の連続性・広がり感等、調和を図れるものが求められる。

	格子蓋タイプ	充填タイプ（透水性舗装）	充填タイプ（自然石・スリット排水）			
概要	 <p>形状寸法：2,000mm×2,000mm 材質：鋳鉄</p>	 <p>形状寸法：2,000mm×2,000mm 材質：鋳鉄、透水性舗装材</p>	 <p>形状寸法：2,000mm×2,000mm 材質：鋳鉄、自然石</p>			
形状						
雨水の浸透	<ul style="list-style-type: none"> <li>本体が格子状なので全面的に浸透が可能。</li> </ul>	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>浸透は面的ではなく水抜き穴部と中央のみ。</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>雨水の浸透は周囲のスリットと中央部のみ。</li> <li>浸透量が限られるため、異常気象時は灌水が必要。</li> </ul>	△
安全性	<ul style="list-style-type: none"> <li>女性の靴のヒールが引っかかる懸念がある。</li> </ul>	△	<ul style="list-style-type: none"> <li>なし</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>なし</li> </ul>	○
景観面	<ul style="list-style-type: none"> <li>黒色の鋳鉄の格子状の保護材が景観上のポイントとなり得る一方で、舗装の連続性・広がり感を阻害する可能性がある。</li> </ul>	△	<ul style="list-style-type: none"> <li>表面に透水性舗装を充填することから、周囲の舗装材の色、材質に比較的近いものを設置することができ、周囲との連続性は比較的高い。</li> </ul>	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>周囲の舗装材と同じものを充填することにより、色、材質ともに統一することができ、歩道部の広がりとすっきりとした景観となる。</li> </ul>	◎
維持管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的にはメンテナンスフリー</li> </ul>	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>充填した舗装材の劣化、破損等が発生した場合、補修が必要。目詰まりの懸念あり。</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>充填した自然石の破損、剥離等が発生した場合、補修が必要。目詰まりの懸念あり。</li> </ul>	○
施工性	<ul style="list-style-type: none"> <li>受枠施工後、受枠と本体を止め金具で固定するのみ</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>受枠施工後、受枠と本体を止め金具で固定し、舗装材を充填する</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>受枠施工後、受枠と本体を止め金具で固定した後、充填材（自然石等）を個々に調整し設置。施工時間がかかる。</li> </ul>	△
コスト	約¥350,000（材料、設置費込み）	◎	約¥600,000（材料、設置費込み）	○	約¥800,000（材料、設置費込み）	△



## (5) 基盤整備のまとめ

- 十分な基盤の大きさ  
→2m×2m 深さ1m の植栽柵設置
- 土壌改良  
→良質の黒土に客土  
→真珠岩系パーライトで保水性確保  
→黒曜石系パーライトで排水層設置
- ゆらぎ対策  
→支柱を設置 (形式は引き続き検討)
- 踏圧防止  
→ツリーサークルを設置 (形式は引き続き検討)

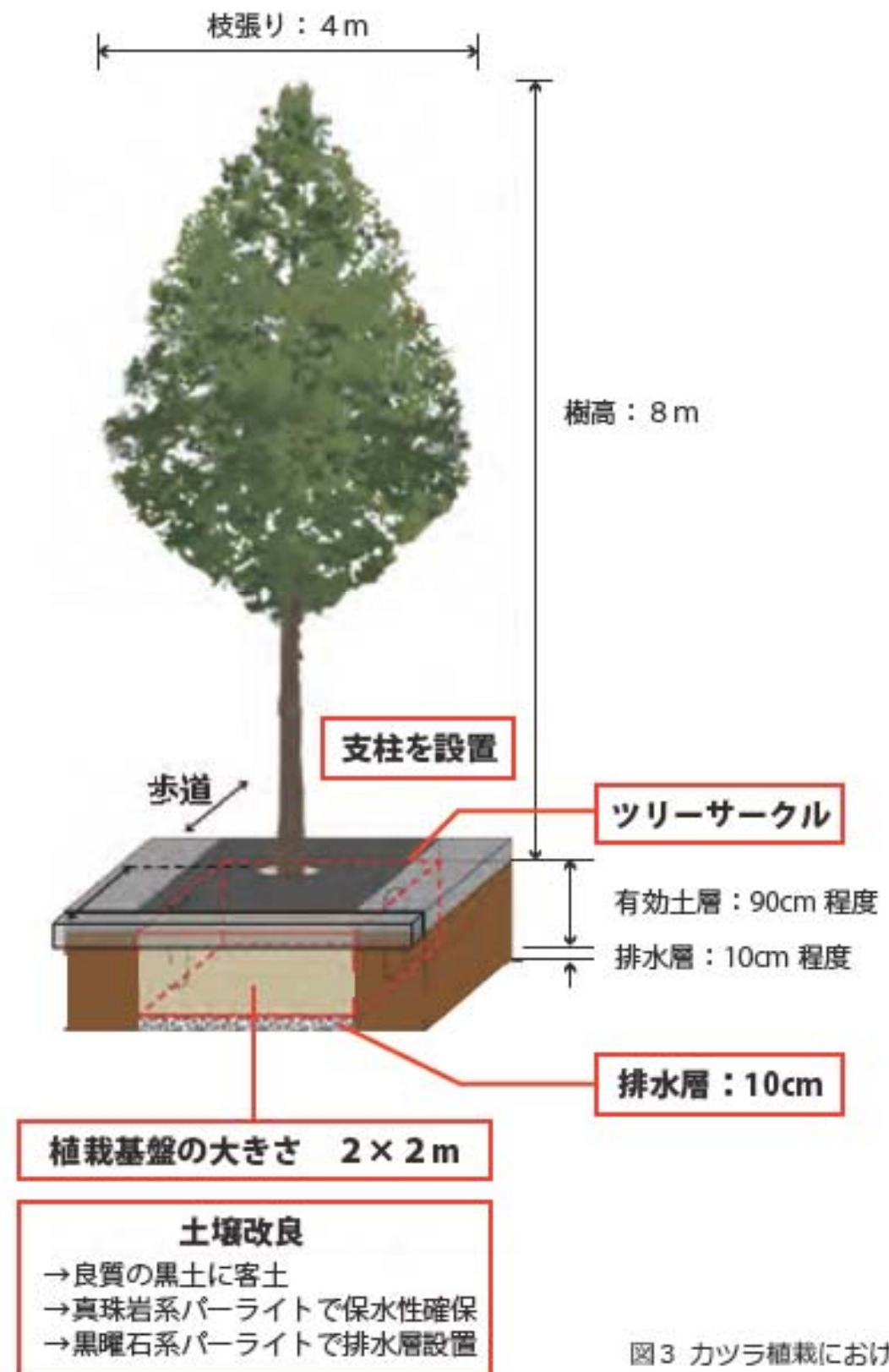


図3 カツラ植栽における基盤整備



## (1) 銀座通りにおける高木配置の基本的な考え方

## □ 関連法規

○関連法規（道路法、道路構造令、道路緑化技術基準）に基づき配置する。

## □ 横断配置について

○共同溝等の地下埋設物、建築限界などの物理的制約を踏まえながら、地下埋設物から2.3mの幅ほぼ中央に配置する。（図4 断面図参照）

## □ 樹形について

○カツラの樹高は、通りの美観から、照明灯の高さと同程度の8.0m、枝張り4.0mを基準とする。（図6 縦断面図参照）

## □ 植栽間隔について

○カツラの枝張り+2mの基準より、植栽間隔は6.0mを基準とする。（図5 平面図参照）

## □ その他について

- 信号、標識、車両・歩行者等の視認性を確保する。（特に、交差点付近）
- 地下埋設物等の地中の状況を配慮する。
- 照明灯の視認性に留意し、設置状況及びデザインに配慮する。
- 地元意向に配慮する。（景観効果に配慮した可能な限りの緑量確保）

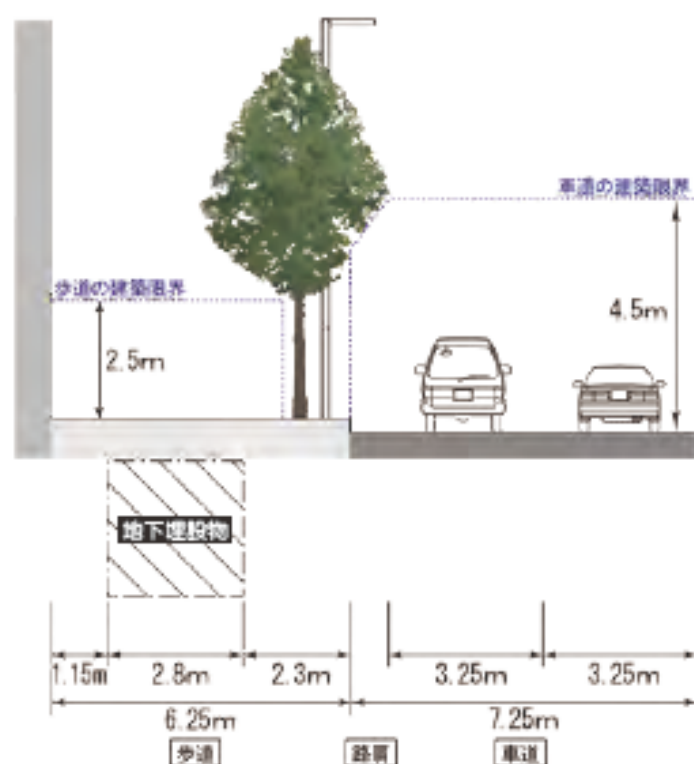


図4 断面図

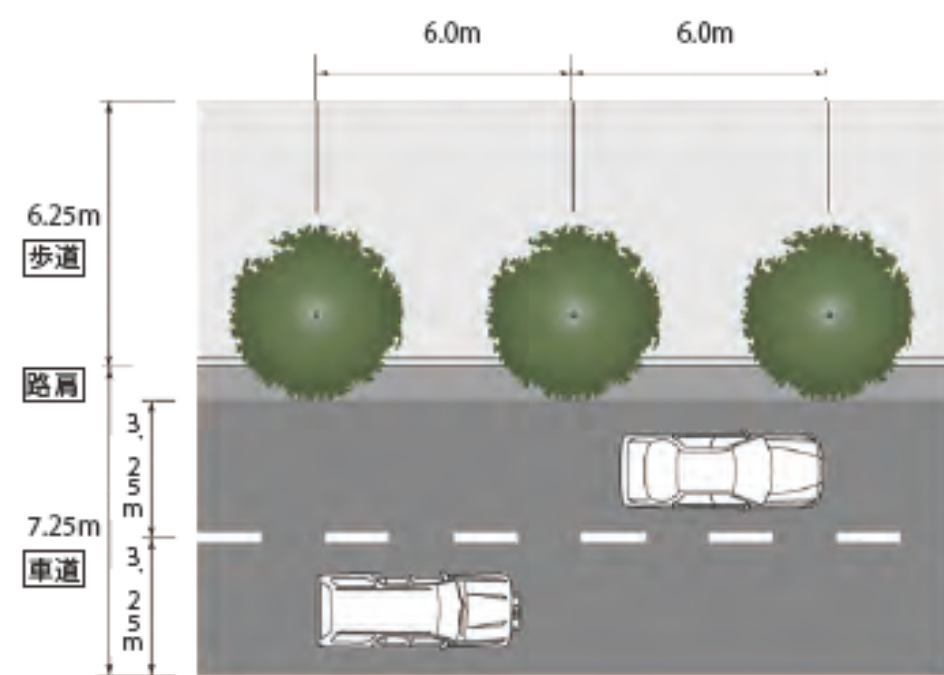


図5 平面図

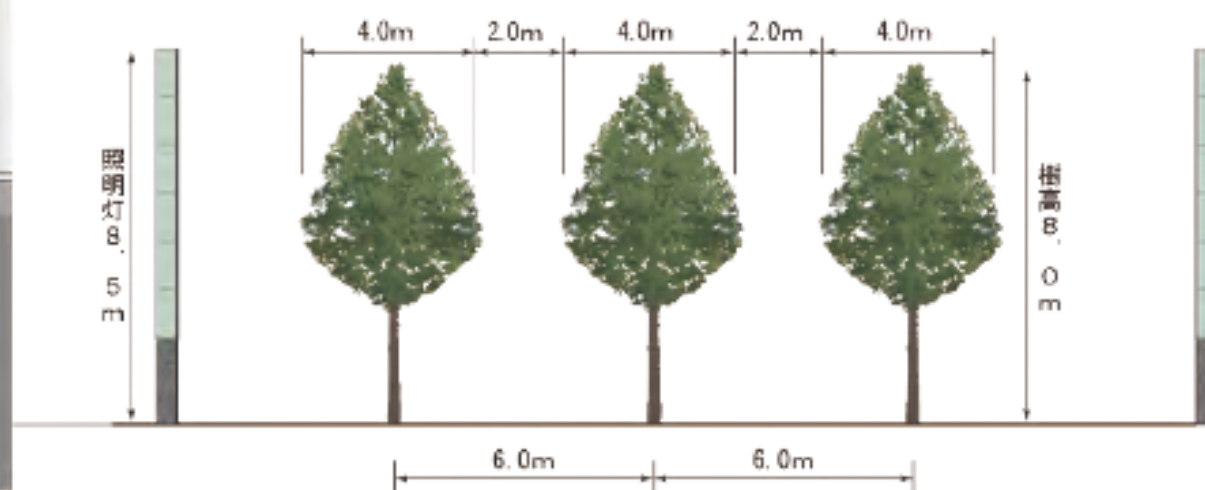
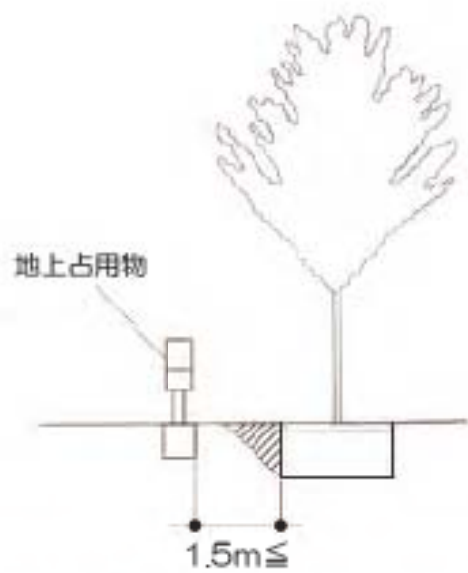
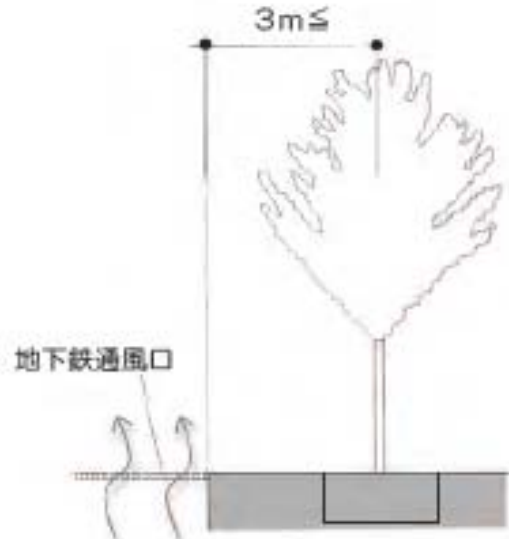
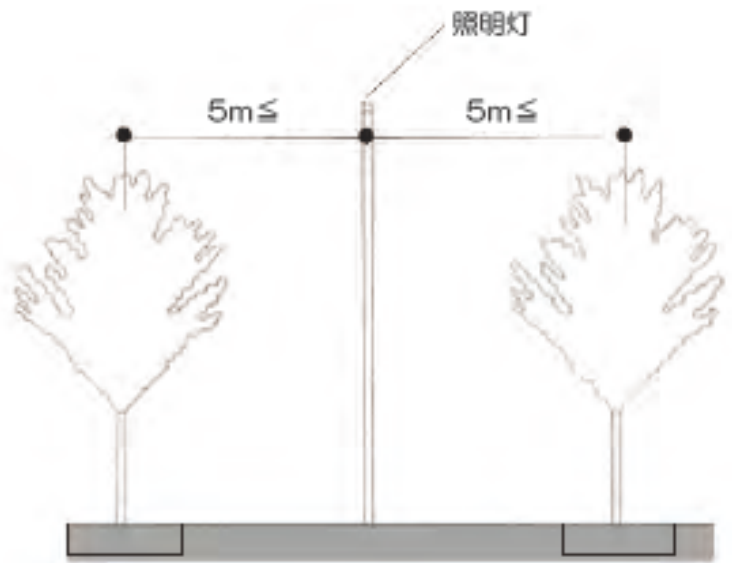
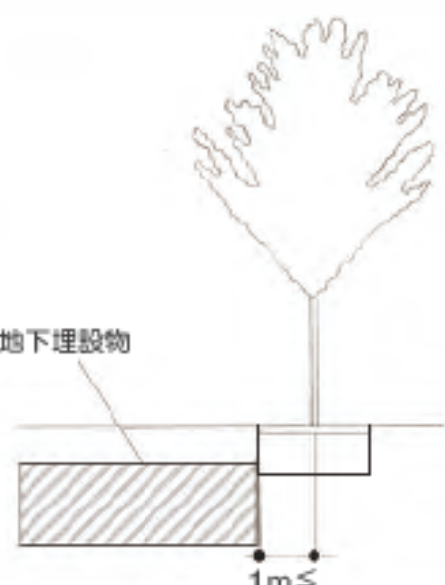
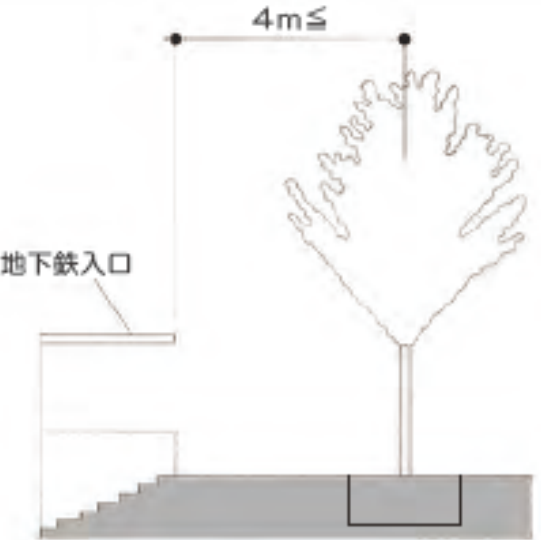


図6 縦断面図



## (2) 基本的な配置ルール

<p>様々な占用物件との離隔について整理する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・照明灯との離隔</li> <li>・地上占用物件との離隔</li> <li>・地下埋設物との離隔</li> <li>・地下鉄通風口との離隔</li> <li>・地下鉄入口との離隔</li> </ul>		
	<p>図7 カツラと地上占用物との離隔距離</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地上占用物の基礎からカツラ植栽樹外縁まで、掘削の影響範囲 1.5m以上確保</li> </ul>	<p>図8 カツラと地下鉄通風口との離隔距離</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・メトロ通風口に面する枝の梢端枯に配慮して、メトロ通風口～カツラ幹芯まで3m以上確保 (カツラ葉張W: 4mと想定)</li> </ul>
		
<p>図9 カツラと街路灯との離隔距離</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・街路灯と幹芯まで5m以上、街路灯を挟むカツラ～カツラ間10m以上確保 (10mを大きく超える場合、街路灯とカツラ幹芯までの距離を調整)</li> </ul>	<p>図10 カツラと地下埋設物との離隔距離</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地下埋設物の壁面～カツラ幹芯まで、1m以上確保</li> </ul>	<p>図11 地下鉄入口との離隔距離</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地下鉄入口～カツラ幹芯まで4m以上確保</li> </ul>



## (3) 占用物件の配置

## 高木配置の制約 [第1回資料より抜粋]

## 占用物件の残置・移設・撤去について整理

## ■残置するもの

- ・スピーカー・カメラ
- ・時計
- ・警察施設
- ・石碑

## ■移設するもの

- ・標識
- ・電源ボックス+GFree
- ・丁目プレート
- ・タクシー乗り場標識
- ・バス停

## ■撤去するもの

- ・横断禁止 (中央区)



スピーカー・カメラ



時計



電源ボックス+GFree



タクシー乗り場標識



## 占用物件 移設の位置の条件

- ・交通の支障とならない位置 (歩行者天国時の横断等)
- ・景観への影響を最小限にする。

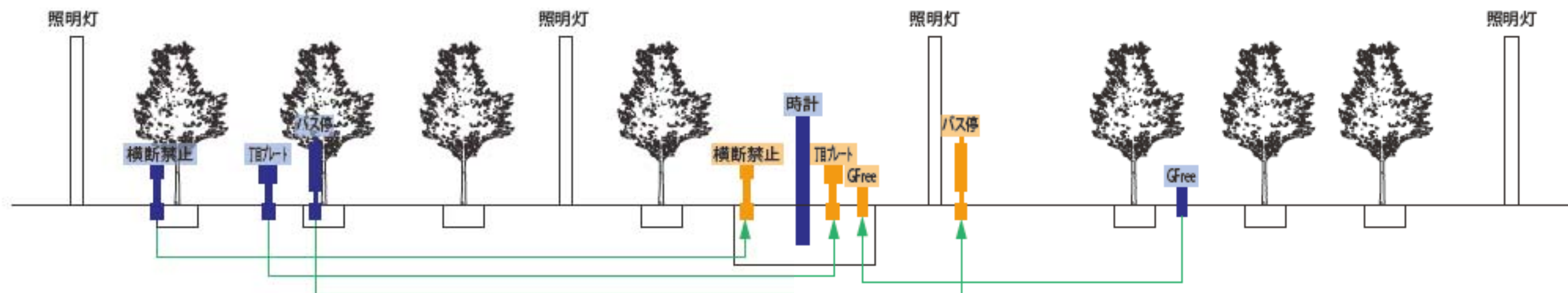
## 集約

## 集約する先の考え方

- ・残置するものの近くに集約する
- ・それぞれの機能性・利便性を考慮
  - 標識 (街区の中央付近、同じ標識同士の間隔配慮)
  - 電源ボックス+Gfree (電源ボックス同士の間隔を配慮)
  - 丁目プレート (街区中央付近)
  - タクシー乗り場標識 (停車列が確保できるよう信号直後を避ける)
  - バス停 (停留所乗降口の標準開口部 7mを確保)




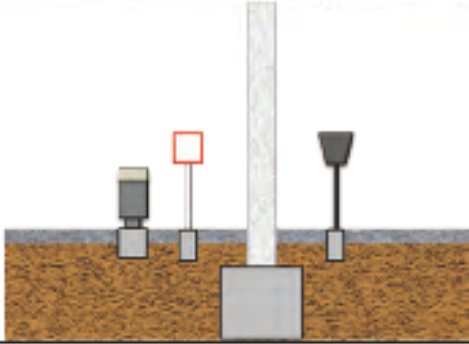
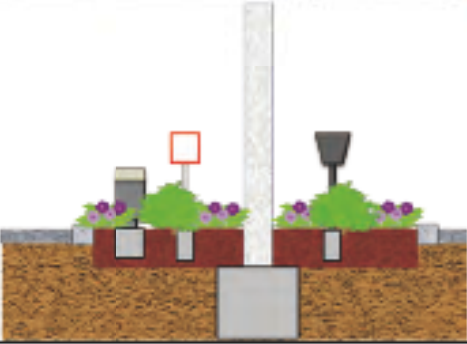
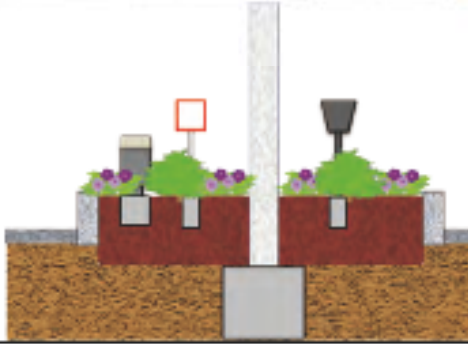
## □配置例

■ 現況 ■ 移設後





## (3) 占用物件の配置 ー移設先の処理ー

	ケース1 御影石舗装	ケース2 既存の植栽帯を活用	ケース3 既存植栽帯位置に花壇立ち上げ
イメージ			
構造整理			
景観形成	<ul style="list-style-type: none"> <li>舗装が広がり、占用物のみが点在するためすっきりとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>花壇の存在により、ケース1と比較して緑が多い印象を受ける。</li> <li>占用物は花壇の中に位置するため、花壇と一体的になる。</li> <li>花壇が低い位置にあるため視野が広がり、開放感がある。</li> <li>整備前と変化がない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>花壇の存在により、ケース1と比較して緑が多い印象を受ける。</li> <li>占用物は花壇の中に位置するため、花壇と一体的になる。</li> <li>花壇が歩行者の目線に近くなるため存在感がでる。</li> <li>整備前と変化があり景観整備の効果が高まる。</li> </ul>
安全性	<ul style="list-style-type: none"> <li>従前の植栽帯がなくなることで、歩道が広く使用できる一方、歩行者と車道との距離が近くなる（安全性への影響）。</li> <li>既存占用物のみが複数歩道に存置するため、歩行者との接触・干渉が生じる可能性がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>植栽帯により歩行者と車道との距離が保たれる。</li> <li>占用物は花壇と一体となっているため、歩行者との接触・干渉は生じない。</li> <li>従前植栽帯活用のため、歩行者動線への影響はない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>植栽帯により歩行者と車道との距離が保たれる。</li> <li>占用物は花壇と一体となっているため、歩行者との接触・干渉は生じない。</li> </ul>
経施工性・	<ul style="list-style-type: none"> <li>従前の植栽帯を撤去・舗装する。</li> <li>コストはケース2より高い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>従前植栽帯を活用するため施工が容易である。</li> <li>コストは最も低い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>従前植栽帯位置に、占用物の基礎を上げ、新たな花壇を作り直す必要あり。</li> <li>施工に時間がかかり占用物件に対応が必要である。</li> <li>コストは最も高い。</li> </ul>
維持管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>特になし。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>植替、捕植、灌水、堆肥等。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>植替、捕植、灌水、堆肥等。</li> <li>基礎を底上げしていることからケース2と比較し、灌水の回数は多い。</li> </ul>



## (4) 施工計画 (施工手順)

施工範囲 (案)

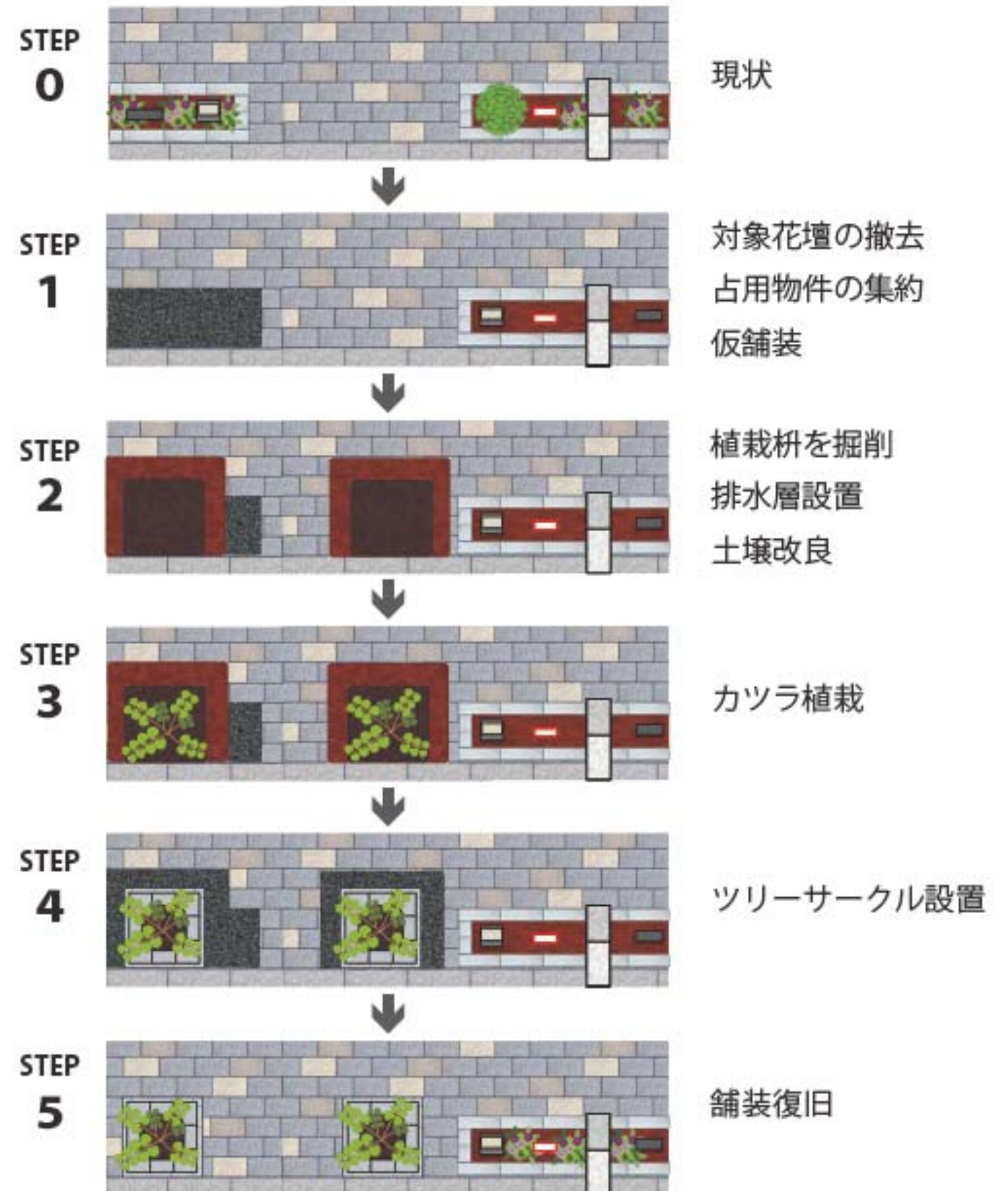
■ 施工時期：平成29年度  
■ 施工時期：平成30年度

	上り	下り
1丁目	10本	12本
2丁目	10本	11本
3丁目	11本	7本
4丁目	4本	3本
5丁目	7本	7本
6丁目	10本	9本
7丁目	11本	9本
8丁目	8本	10本

地下鉄工事予定のため、平成29年度における工事は行わない。

- 植栽時期は2カ年であり、成長の差は大きくないと考える
- 銀座地区は民間工事も多く、調整が必要。  
→ 施工範囲を広くとることにより、調整が可能。
- 連続した施工範囲により、施工効率が良くなる。
- 施工範囲の周知がしやすい。

## (5) 施工フロー





## (5) 『銀座通り』における高木の配置イメージ



▲現状



▲2020 オリパラ開催時のイメージ



▲時間経過により成木化したイメージ



## (1) ストリートファニチャーの基本的な考え方

- できる限り広く歩道空間を確保するとともに、歩行者の安全性の確保を図る。
- 道路占用物件として、プランター及びベンチを設置していく。
- カツラを基軸としつつ、補助植栽を加えることで、奥行きと多様さのある緑の系をつくり出す。
- 四季折々の表情を見せるカツラを補完し、相乗する草花を導入することで、1年を通じてにぎやかな景色を発現させていく。
- 歩行者が目線と程近い位置で草花を愛でられるように、適切な高さのプランターとする。
- プランターのデザインは、『銀座通り』の風格や品格にふさわしいものを選定していく。
- 草花の開花時期と寿命を見据えながら、常に手の行き届いた維持管理を行うことにより、訪れた人々を「おもてなし」していく。
- カツラとプランターによる草花の合間に、歩行者が座り休むことができるベンチを適切に配置し、ユニバーサルデザイン的环境を整えていく。

## (2) 設置方針

### 1) プランター

- 歩行空間の有効性と安全性を考慮。
- 空間のアクセントとしての演出。



(プランター設置例)

### 2) ベンチ

- ユニバーサルデザインの視点から、緑陰が享受できる場所への配置。



(ベンチ設置例)

## (3) ストリートファニチャーの整備方針

- プランター及びベンチについては、人の力では簡単に持ち運びの出来ない重さのものとする。
- プランター及びベンチについては、周辺に点在し、かつ、歩行者の視界から隠したい占用物件を、なるべくインテグレイト（統合）出来るようなデザインとすることを旨とする。
- プランター及びベンチについては、全体の統一感や場所毎の特徴を考慮しながら、形状や素材を含め具体的にデザイン検討していく。

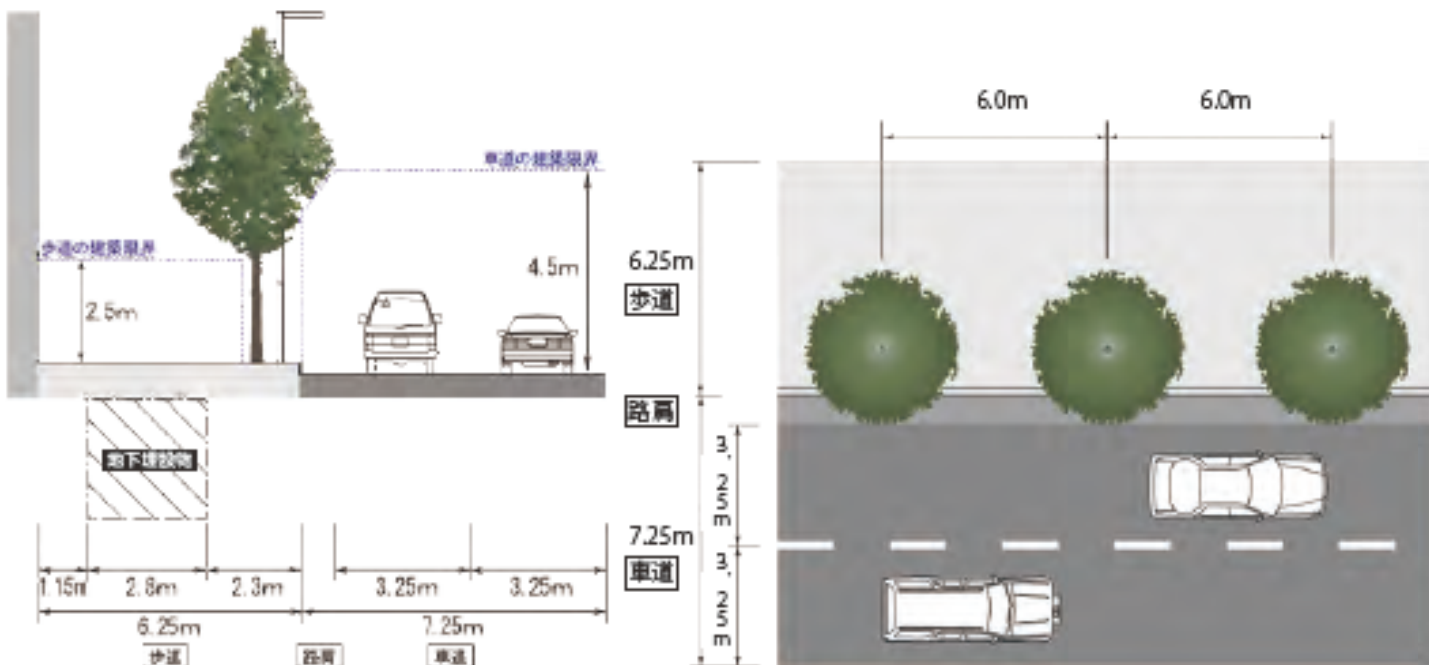


図12 断面図(再掲)

図13 平面図(再掲)



## (1) 良好な道路空間を確保するための維持管理方針

## □安全確保（建築限界及び視距の確保）

- ・歩行者・車両の視距・建築限界を確保
- ・標識等の視認性確保
- ・快適な通行が出来る歩行者動線の維持

## □景観を作り出す街路樹の維持（端正な美しい樹形：樹高8m、枝張り4mを目標）

- ・健全な生育
- ・自然樹形を維持
- ・緑陰が出来るよう樹冠維持



○高木の適切な剪定



○落ち葉の清掃

## 従来の街路樹の維持管理

（目的）道路交通の安全性・快適性の確保



冬

夏（剪定直後）

夏（剪定後・5年経過）

## 銀座通りのカツラの維持管理

（目的）道路交通の安全性・快適性の確保  
+

銀座ならではの街路樹景観の創出



冬

夏（毎年同じ）

- ・常時、丁度良い状態に保つ
- ・冬期（落葉時期）の活用

## □憩いと安らぎを提供するプランター及びベンチの管理

- ・1年を通じてにぎやかな景色を発現
- ・安心して座れる憩いの場の維持

## □地元が中心となった景観の維持管理

- ・道路管理者と地元が連携しつつ、地元中心による維持管理
    - ◆カツラ
    - ◆ベンチ・プランター
- 地元による管理



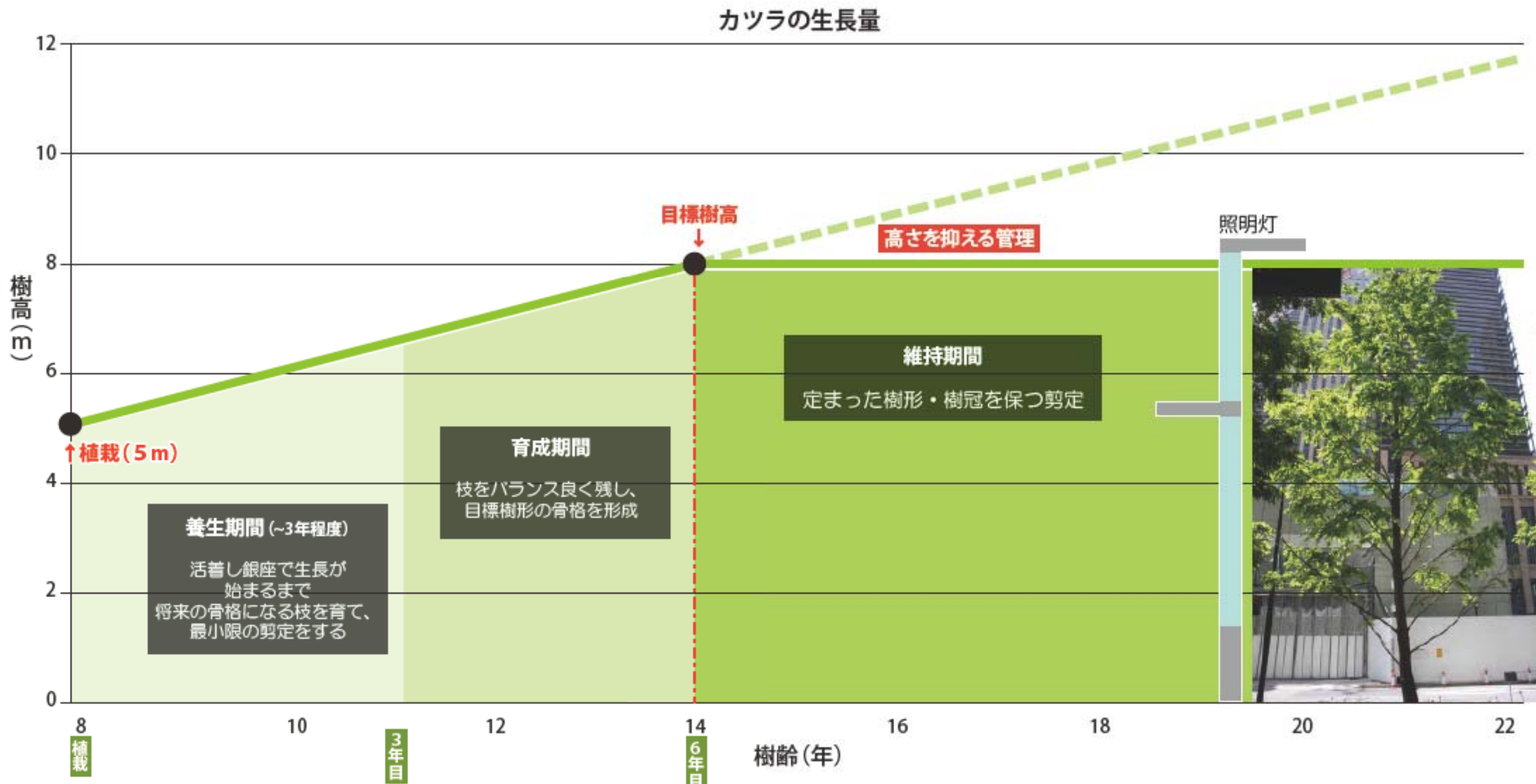
## (2) 景観を維持するための管理イメージ

内容	春期	夏期	秋期	冬期
<b>【歩道空間】</b>				
・日常点検	歩道空間の安全な通行に係る事項を点検 ・歩道舗装の変状 ・カツラの建築限界・視距阻害の有無、枯れ・損傷等の確認、病害虫の確認 ・ツリーサークル変状確認 ・ベンチ、プランターの変状・破損等確認 安全管理			
・清掃	ゴミ・落ち葉・枯れ枝等の清掃			
<b>【カツラ】</b>				
・ヤゴ取り	根本や幹からでたヤゴの撤去			
・灌水	異常気象時に灌水			
・剪定			剪定	
・その他 健全度診断 枯損木撤去			樹木医による診断 ※樹木が成長したとき実施 撤去・植え替え ※枯死した場合	
<b>【プランター】</b>				
・植物	植物の管理(植え替え・手入れ等)			
・灌水	灌水			
<b>【ベンチ】</b>				
・清掃	ゴミ・汚れの清掃			



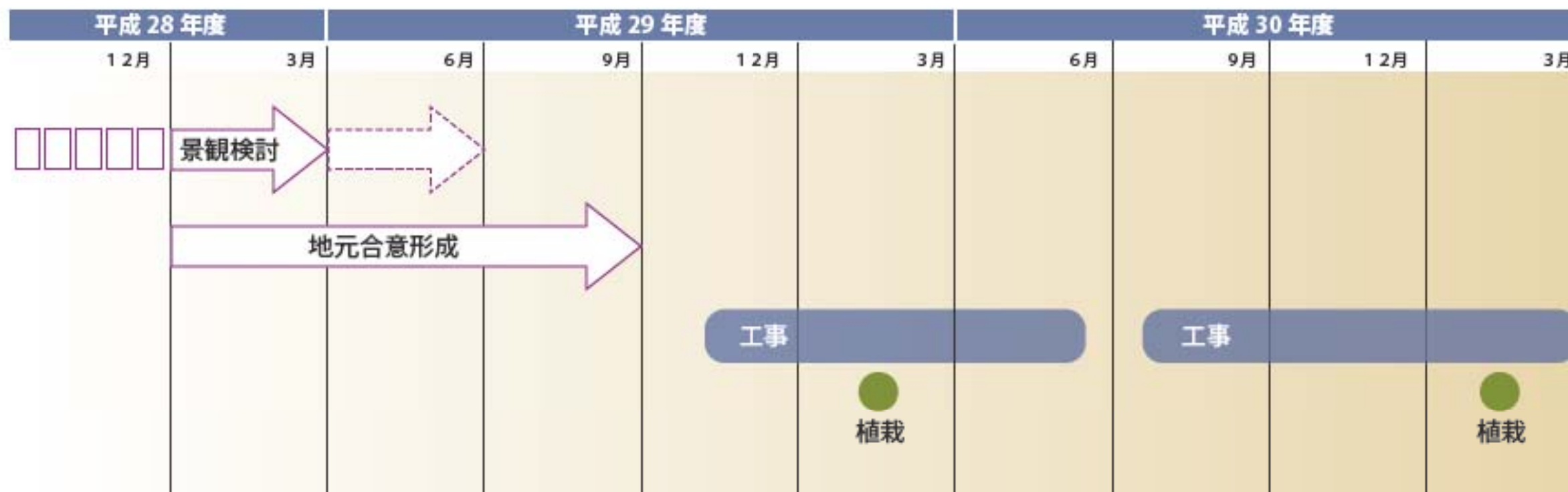
## (3) カツラの管理手法

□生育に合わせた適切な管理





## (1) 今後のスケジュール



## (2) 今後の調整



- ➡ 決定内容の広報
- ➡ 維持管理ガイドライン（仮称）の作成
- ➡ 支柱・ツリーサークルの詳細検討
- ➡ 占用物件配置の詳細検討
- ➡ プランター、ベンチの詳細検討
- ➡ エリアマネジメントの検討